



# 泉 薫

学校の目標  
 社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。  
 ・よく考え、進んで学習する子ども  
 ・いつも元気で、じょうぶな子ども  
 ・こころ豊かで、やさしい子ども

## 大人が子どもに伝えていくこと

副校長 中村正人

令和四年も残すところ、あと一か月になりました。十一月二十五日(金)、二十六日(土)には「矢口文化芸術展」を多くの地域・保護者の皆様に御参観いただきありがとうございました。作品の制作にあたった児童や教職員にとっても、今後の励みになることと思います。

年の瀬を迎え、思い出すことがあります。それが私が小学生のときに毎年、祖父の家で行われていた年始の挨拶で、祖父に言われた言葉です。祖父はとても厳格で、家族や親戚に対して厳しく接することがありました。祖父は当時から節約を実行しており、家の電球はいくつか抜かれていて全体的に暗く、冬に親戚一同が集まっても暖房をつけることはありませんでした。祖父のもつ威圧感も相まって、その年始の挨拶は当時の私にとって、楽しみにするものではありませんでした。

祖父は毎年、年始の挨拶で「講話」の時間を作り、訪れた親戚全員に対し自身の信念を伝えていました。講話の後は、孫ひとりひとりに対し、話を聞く時間を設けていました。そのときの話の中で祖父は私に、人は働くことがとても大切で、将来、何の職業に就きたいのかを今から考え、その

夢に向かって、しっかりと学びなさいと言ったのです。学生であった私は、学生の時分にそのようなことを言われても困ると反感を感じていました。しかし、自分が実際に社会人になると、祖父が私に伝えようとしていたことがよく分かりました。私が就職したときはバブル全盛期で職を選ばなければ直ぐに就職することができました。しかしその状況は長くは続かず、社会情勢や人の価値観が大きく変わり、「終身雇用」という概念も今は昔の状況です。あ のとき、祖父の思いを感じ取ることでできず、反発する気持ちしか生まれませんでした。だが、学生のように自分の長所を知り、将来に向けて夢をもつこと、そしてその夢を実現させるために、学ぶ姿勢は学生ときには特に必要なのだということを大人になって気付くことができました。

現在はコロナ禍の影響を受け、多くの人が集まったり、特に高齢の方には会ったりすることに制限が掛けられ、昔のように、直接人に会って話を聞く機会を作りにくい状況です。しかし、子どものときには気付くことができな ことであつても、大人が大切だと思ふことを子どものときに伝えることはとても貴重なことだと思ひます。年末年始は一年の中でも特に親戚や親子で過ごす時間が多い時期でもあります。今年一年間を振り返るよい機会ともなりますので、進学や進級に向けての夢や自分をより成長させる目標について、親子で話をするこゝも良いのではないかと感じています。

今年、一年間、様々なことで御理解と御協力をいただきましたありがとうございます。よいお年を迎えください。

## 『きれいな学校にしよう』

生活指導部

今年も残りわずかになりました。新年を気持ちよく迎えられるように「身の回りをきちんと整頓する」を呼びかけます。

道具箱の中の整理や、使わなくなった学習用具の持ち帰り、清掃活動にも力を入れて、年末には大掃除を行います。整った環境で学習する心地良さを理解し、心遣いを大切にできる児童を増やしていきます。ご家庭でも、自分の身の周りのことは自分で行えるよう声掛けをお願い致します。

また、冬休みの生活については、「よいこの冬休み」を配布いたします。お子さんとよく話し合い、約束を決めて、安全で事故のない楽しい年末・年始をお過ごしください。

## 『未来ものづくり科』について

校内研究推進部

現代社会は、様々な要因から、変動性(volatility)、不確実性(uncertainty)、複雑性(complexity)、曖昧性(ambiguity)の中にあり、それぞれを英語で表現した頭文字を取った VUCA (ブーカ) 時代と呼ばれる予測困難な状況にあると言われています。

大田区教育委員会は、このような急速に変化を続ける未来社会を見据え、令和七年度に小学校第五学年及び第六学年を対象とした区独自教科「おたの未来づくり」を新設し、全ての児童に未来を創る「創造的な資質・能力」を育成することを目指しています。教科「おたの未来づくり」では「豊かな自然と歴史」、「貴重な文化」「昔ながらのにぎわい」「世界に誇る高い技術」等の各地域にある特色を教育資源として最大限に生かし、実社会で活躍する人が授業に参画する、STEAM 教育等の教科横断的な学習を行います。

本校は、大田区教育委員会教育研究推進校として教科「おたの未来づくり」の新設に向けて、今年度から三年間、区内小学校で活用できるカリキュラムを開発することを目的として研究実践を積み重ねています。